

「平和の源はここに」 (2024. 1. 21)

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。

わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。

心を騒がせるな。おびえるな。」(ヨハネ 14:27)

皆さん、明けましておめでとうございます。憐れみ豊かな主を見上げ、希望を持って新しい日々を踏み出しましょう。特に先月のイブ礼拝です。そこに大きな憐れみがありました。参加者で礼拝堂が満ちました。素晴らしいサクソとピアノの演奏でした。福音を告げることができました。そして、この背後に教会員お一人おひとりの奉仕がありました。祈り手も含めて総動員の奉仕でした。小さな群れへの主の大きな憐れみです。



能登半島地震や日航機炎上事故で年が明け、ウクライナや中東での戦争、拉致問題など解決の糸口が見えません。このような状況だからこそ、イエス様が言われた上掲の「わたしの平和」に満たされ、平和の福音に生きる者でありたいと思います。イエス様の平和とは、嵐の中でもぐっすり眠れる平和です。十字架の上で嘲笑する人々を見つめて執り成し祈る平和です。イエス様はこの平和を、世が与えるように与えるのではないと言われました。この世は平和を得るために戦い争います。軍事力で相手を押さえつけて、その上に成り立つ平和です。でも、イエス様の平和はそうではありません。

まず、その源はどこにあるのでしょうか。イブの夜、天の大軍勢が歌いました。「天には栄光、地に平和」平和の源は、神である方が幼子として降誕されたことにあります。そして、イエス様はその全生涯、神様を呼ぶ時いつも「アッバ」です。パパ、父ちゃんです。いつも幼子です。ここに平和の源があります。父なる神への全き信頼、神様から小さな子供として愛され守られているという確信、神様との平和です。

どうしたら神様との平和に入ることができるのでしょうか。簡単です。イエス様のように「アッバ」と神に全き信頼を寄せて、幼子のようになることです。そのためにイエス様は自ら進んで十字架に架かり、執り成し祈られたのです。これが福音です。

2/15(木)教会ミニかまくら演奏会があります。教会はあらゆる機会を活かして、福音を宣べ伝えます。イブ礼拝同様、皆さんのご協力をお願い致します。